



代表取締役

## YOKOZEKI JUNICHI 横関 順一

2015年に代表取締役を引き継ぎ、横関建設株式会社を発展させてきた横関順一。就任から10年を迎え、会社を新たなステージに引き上げるべく挑戦を続ける姿を追った。

### 建設業と教師との はざまで揺れる将来の夢

父が大工として働いていたころは、父の弟子たちも同じ屋根の下で暮らしており、子どものころはよく一緒に遊んでもらったという。大人たちが楽しそうに酒を酌み交わす姿をそばで見て過ごすのが好きだったという横関。建設業への興味は、自然と培われていった。

しかし成長するにつれて、自分が進む道に迷いが生じていく。明治大学で建築学を専攻し、一層この業界に興味を持った一方、横関の胸中にはもう一つの夢が芽生えていた。それは、子どもたち

に学ぶ楽しさを伝える教師への憧れだ。

教育実習に行き、生徒たちと関わるなかで教職への思いはどんどん膨らんでいったが、最終的に横関は建設の道を選んだ。幼いころに体験した父やその弟子との思い出、そして建設という仕事への純粋な興味といった原体験が決断を後押ししたという。さらには、年齢を重ねた父をサポートしたいという想いもまた、その決断を確固たるものとした。

### コミュニケーションが 仕事のやりがい

修業の一環で、新卒で地場ゼネコンに入社。監督として12年ほど働き、協力業者とのコミュニケーションや、積算の仕方、そして営業などを学ぶことができた。当初は10年程度で横関建設に入るつもりだったが、引き止められて数年延長す

ることになったのだ。

新卒で入社した会社での修業を経て、横関は自分の選択は間違っていなかったと実感した。建設の仕事はやりがいにあふれている。何より、さまざまな人たちとのコミュニケーションが楽しかった。

「人はいろいろな引き出しを持っています。その引き出しをしっかりと開けてもらえるようなコミュニケーションを取るのが大切。とことん話し合い、引き出しを開けていただく。そうして、奥底にあるニーズを形にしたときに、お客様にとって『これ以上の満足はない』と思えるレベルの施工ができます。結果、それが次の仕事にもつながります」。

施工の精度や工期、安全はもちろんのこと、お客様に心から喜んでもらえるものをつくるには、そもそも「引き出し」にしまわれている「本当は何を考えているか」という部分を探り出さなければならない。対話を重ね、深層のニーズをくみ取っていく。そうした信頼を積み重ねていく過程が、横関は楽しくて仕方なかった。

### 対話を積み重ねて得た信頼関係

横関建設を継ぐという決意を胸に、1995年に入社。さまざまな現場を経験し、月日を重ねるにつれて、仕事にも自信が出てくるようになる。

横関建設に入社してから携わった現場で最も印象に残っているのが、2017年に行った物流倉庫の工事だ。細かい原価計算が功を奏し、お客様にも納得してもらったうえで契約を締結。しかし、本当に大変だったのはここからだった。

建設にあたって近隣住民向けに開催した説明会で、ある一人の住民から怒号が飛んできたのだ。

「そんなところに建てたら、環境が変わるだろう！」

これまで工事の仕方や積算、お客様との交渉術については学んできたが、こうしたケースの対応は経験がない。その場で納得してもらうことはできず、横関は毎日のようにその住民の家に出向き、懇々と説明を続けた。日当たりについても問題ないと計算結果を示してみたが、「とにかく建てられ

るのが嫌だ」の一点張り。横関は手探りで住民との関係性を構築していった。

何度も会い、対話を重ねるうちに徐々に態度は軟化していく。そうして一度信頼関係が築かれると、あれほど反対していた建設を受け入れてくれるようになったのだ。あきらめず丁寧にコミュニケーションを取れば、心の引き出しを開けてくれるのだと実感した瞬間だった。

### 売り上げ2倍を目指して

社長に就任して10年。これまでお客様第一主義を貫いてきた。しかし、これからさらに会社を発展させていくためにも、今後は従業員の給料を上げ、ほかの事業にも経営のすそ野を広げていきたいと考えている。そのための原資として、売り上げを2倍に伸ばすことを目指していく。

「余裕が出たらいずれ不動産業にも挑戦してみたいところですね。利益をしっかりと確保し、お客様にご満足いただける仕事をして、従業員の皆さんの生活も潤うという良い循環をつくっていきたいと思います」。

現在、倉庫や工場に特化した大型プロジェクトが動いている最中だ。これを起爆剤に、さらなる売り上げ拡大を目指していく。

お客様と従業員の双方にとって良い循環を生み出すため、横関建設の新たな挑戦が今始まる。



▲横関建設株式会社

# 私のキャリアパス

～技術革新の転換期を経験した世代の仕事とプライベート～

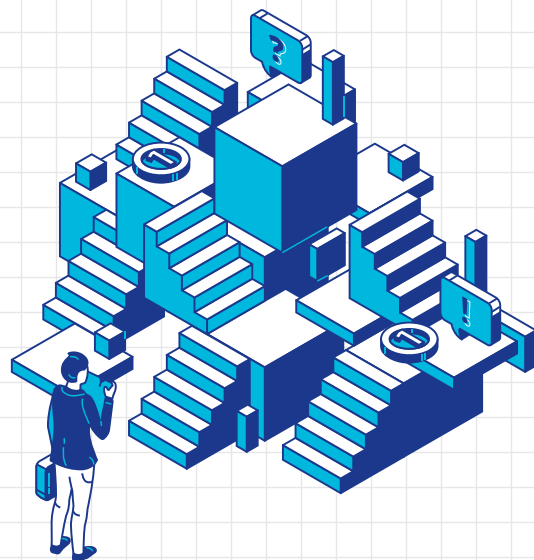


工事部 一級建築施工管理技士  
よこぜき くにいち  
**横関 国一さん**

## 2 人生のターニングポイント

### 遠方の趣味仲間との縁をつないだインターネット掲示板

若い頃からプライベートでは好きなことをして楽しんできました。今から20年以上前、インターネットが普及し始めた頃は、掲示板への書き込みを通して人とつながることで世界が広がりました。趣味のオーディオ仲間が増え、九州、四国、近畿まで足を運んで交流するようになったのです。オリジナルの音を聴かせ合うというマニアックな時間を共有でき、人生の中でとても充実した時期でした。



自動車整備士、運送ドライバーという2つの職種を経験した後、縁あって横関建設でキャリアを重ねてきた横関国一さん。2000年代は、仕事でもプライベートでも、技術進歩のおかげで、それまでの常識がガラリと変わりました。これまでの40年を、人生の幸福度グラフと併せて振り返っていただきます。

## 1 経歴・現在の担当業務

### 2業種3社を渡り歩き、4社目で横関建設に入社し三十数年

高校卒業と同時に、趣味の延長で自動車整備の仕事に就きました。しかし、プライベートでバイクをいじっていたときのような高揚感は得られず、約1年で退職。運送会社のドライバーに転身し、2社で合計8年ほど勤めました。最後の半年ほどは、親族が経営する横関建設にもアルバイトとして勤務しており、その縁で正社員として入社することになりました。現在は、工事現場の管理・監督をしています。

## 3 最も衝撃を受けたエピソード

### 新型機器が登場するたびに、技術の進歩に感動

20年ほど前、現場に自動視準機能付きの測量機が導入されました。測量機は1台100万円以上するため、めったに買い替えることはありません。そのため、最新機種に触れるだけでもわくわくしましたし、使いこなせるようになったときは胸が高鳴りました。それまで目視で行っていた作業を、機械の設定1つで瞬時にできるという革新的な技術に感動したことを覚えています。時代の転換期を目の当たりにする良い経験となりました。

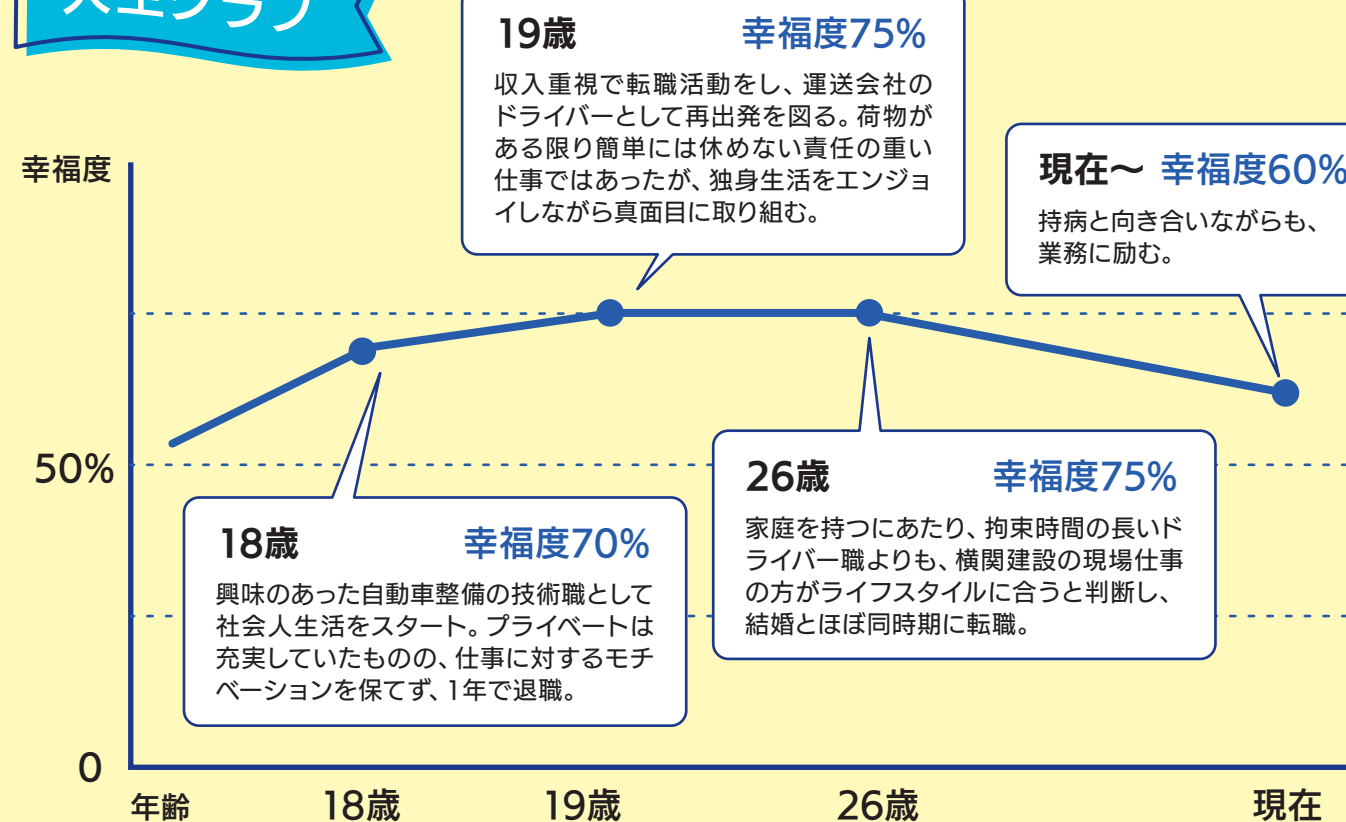


幾多の現場で技術の進化を目の当たりにし、趣味の世界ではインターネットを通じて新たなつながりを育んできた横関国一さん。その探求心と経験を胸に、病と向き合いながらも『できる限り仕事を続けたい』という新たな目標へ向かう。横関さんの挑戦はまだまだ続く……

## 4 今後の目標

病気と上手に付き合いながら、できる限り仕事を続けていきたいと思います。

## 人生グラフ



現場を支える若き力! /

# 若手の成長記録

建設現場は多くの協力会社が連携し、1つのプロジェクトを完成させる場所です。そんな環境で、若い社員たちは日々どんなことを意識し、どのようなスキルを身につけているのでしょうか。日々目覚ましい成長を遂げる若手をご紹介します。



入社4年目!

土木部 入社年月: 2022年4月  
くぼや しゅうた  
久保谷 秀太さん

## 現在の仕事について

興味があった分野を座学で学び  
念願の入社

新卒で当社に入社後、一貫して建設土木の仕事に従事しています。もともと建物の基礎工事や外構工事に興味があり、専門学校で2年間学んだ後、迷わず当社への入社を決めました。現在は希望通りの部署に配属され、主に工場や倉庫などの基礎や外構工事を担当しています。

## 最も「成長した」と感じること

実際の現場で経験を積むことで  
流れがわかるように

建設土木の基礎知識に関しては専門学校で学んできました。とはいえ、実際の現場では、最初のうちはまったく流れがつかめませんでした。しかし、現場に入って毎日経験を積むうちに、徐々に段取りがわかってきて「この作業の前には、これをしておかねばならない」と自主的に考えられるようになったことが、一番成長できた部分だと思います。

## 仕事をする上で意識していること

「挨拶」と「現場の整理整頓」を徹底

建築の現場では当社以外にも様々な協力会社の方が出入りし、連携しながら一緒に仕事をしているため、積極的に挨拶することを心がけています。各社との円滑なコミュニケーションは、現場をスムーズに進める上で欠かせません。また、現場の整理整頓にも常に気を配っています。資材や道具が散らかっていると、すぐに次の作業に取りかかれず、段取りも悪くなってしまうため片付けと清掃を徹底しています。

## 先輩への質問方法

わからないことがあった際は、すぐに先輩に聞くのではなく、ある程度自分の中で見当をつけてから質問するようにしています。「ここまでは理解している」と伝えることで、先輩方も教えやすくなり、私の理解もより深まっています。



## 今後、挑戦したいこと

国家資格取得に向けて  
準備を進めていきたい

できれば来年度中、遅くとも再来年度には、2級土木施工管理技士の資格を取得したいと思っています。専門学校の在学中に学科試験は合格しているので、あとは実地試験を残すのみ。その後も1級合格を目指し、仕事と並行してこつこつと勉強を続けていく予定です。



# 『YOKO CHALLE』 創刊のお知らせ



社内報の発行が始まりました！一人ひとりの頑張りや人となりにフォーカスを当て、発行日が待ち遠しくなるような魅力ある紙面を作っていきます。また、社長の考えや会社に対する思いなども発信していく予定です。これからよろしくお願いいたします！

**毎月月末**  
**(30日または31日)**  
**に発行！**

## 『YOKO CHALLE (ヨコ チャレ)』に込めた思い

横関 (YOKOZEKI) チャレンジ (CHALLENGE) を略して「YOKO CHALLE」にしました。

この社内報タイトルには社員一人ひとりが従来のやり方や既成概念にとらわれることなく、新しい物事へ積極的に挑戦していく姿勢を大切にしたいという思いを込めました。個々人が仕事の進め方などを工夫し、より良い成果を目指して主体的にチャレンジすることで、個人の成長を促し、ひいては会社全体の発展につなげたいという願いが託されています。また、この社内報の発行も、会社としての新たな試み、すなわち「チャレンジ」の一つであるため、このタイトルにしました。

よこぜき じゅんいち  
代表取締役 横関 順一

## 発行の 目的

- 普段は知ることのできない社長の思いや考えを、目に見える形で共有！
- 社員の皆様の頑張りや、魅力を再確認することでコミュニケーションを活性化！
- 会社の魅力を発信し、採用を強化！

## こんな企画を予定

### 巻頭インタビュー

創刊号では社長が登場。第2号以降も社員の皆さんを深掘りします。次回をお楽しみに！

### 現場紹介

離れた場所で働くあの人の活躍や、譲れないこだわりを紹介します。  
学びや気づきが満載です！

### ヒヤリ・ハット事例紹介

現場でヒヤッと感じたことを共有！再発しないためのノウハウを共有予定！

### 私の休日紹介

社員の皆さまの休日をご紹介します！今までは知らなかった意外な共通点があるかも？

